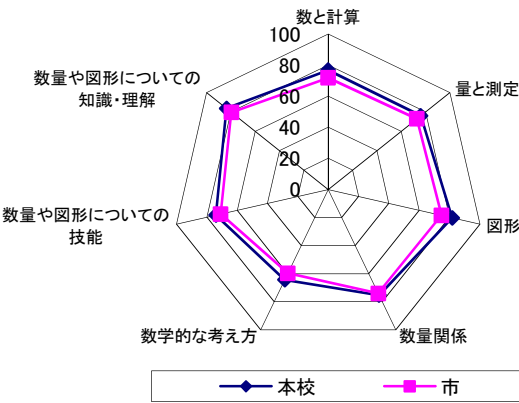


宇都宮市立御幸小学校 第3学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	76.7	71.8
	量と測定	76.0	72.8
	図形	81.8	74.7
	数量関係	75.4	74.1
観点別	数学的な考え方	64.4	59.7
	数量や図形についての技能	73.9	70.9
	数量や図形についての知識・理解	83.6	79.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・市平均を5%上回った。 ・たし算・ひき算、かけ算・わり算、分数などの計算問題の正答率が高かった。 ・数の相対的な大きさの理解については、不十分な児童が多かった。 ・かけ算を使った応用問題、あまりのあるわり算のわる数とあまりの関係を説明する問いの正答率が低かった。	・100ます計算やドリル学習をすすめ、基礎技能の定着を図るようにし、さらに計算ミスを減らすようにする。 ・大きな数の位取りや表記方法についての理解が不十分であったため、言葉や図などを用いて説明させる活動形態をとり、学びを共有化させる。 ・文章題の読み取りについては、学習の中で「何を」求める問題かを意識させていくようにし、立式できるようにする。
量と測定	・市平均をやや上回った。 ・2つの時刻を比較して、その間の時間を求めたり、地図から2つの道のりを読み取り、その長さの大小を比較したりすることができていない児童が多かった。	・「長さ」や「時刻と時間」について、単位が表す量感の違いや、適切な単位を選択できるようにするため、体験活動を取り入れ、具体物や生活経験につなげて考えさせることで定着を図る。
図形	・市平均を7%上回った。 ・直方体を作るときに必要な面の形と数の理解がやや不十分な児童が見られた。	・直方体の箱を実際に利用し、展開しながら、必要な面や数について理解させていく。
数量関係	・市平均とほぼ同じであった。 ・棒グラフの理解が十分であった。 ・□を使った文章問題を表した図の理解や、□を使って減法の式に表すことが理解できていない。	・□を使った式について、ポイントになる言葉や数字に着目させ、問題文に沿って立式できることと、□の求め方の習熟を図る。